

◎第六小学校の目指す教育

☆☆六小の子供たちの強み☆☆

- 明るく素直
- 誰とでも仲良く
- 生活規律が身に付いている。
(あいさつ・時間を守る・靴・傘の整とんなど)
- 決められたことを実行できる。

★六小の子供たちの課題★

- 自分たちの・・・課題
- 自分たちで・・・考える、すすんで動く
- 自分たちの力で・・・解決する、よりよくしていこうとする

【これから子供たちが生きていく社会】

- ・2035年問題
- ・Society 5.0
- ・新型コロナウイルス、世界情勢等、見通しが立たない状況

～今後の社会において求められる力～

- 何が重要であるかを主体的に判断できること
- 多様な人々と協働することができること
- 新たな問題の発見・解決につなげることができること

『次代に生きる子供を育てる』～人間味あふれ、自ら考え、自ら学ぶ子供～

与えられた学びではなく、

○「意志ある学び」を・・・

子供も教師も「したい！！」つまり「Will」のある学習、授業、教育活動を仕掛けていく

「Can」つまり、「できる」を見付ける、増やす

自律する学習者の育成

自己肯定感の育成

(1) 第六小学校の教育目標

- ◎考える子・・・課題意識をもち、自分から学び、考え、伝え合い、学び合う子
- 助け合う子・・・生命や人権を尊重し、みんなと協力する心豊かな子
- 元気な子・・・未来を切り拓き、世界や社会で活躍する心身ともに元気でたくましい子

(2) 目指す学校像、目指す子供像、期待する教師・大人像

- 目指す学校像 「『ともに生きる心』をもって実践する子供を育てる学校

～一人一人が自分らしく輝くために～

- 明日の登校を楽しみにする子供のあふれる学校
- 明日の出勤を楽しみにする教職員のあふれる学校
- 来校することを楽しみにする保護者・地域の方があふれる学校

合い言葉 「笑顔かがやく六小の子、

みんなで育てる六小の子、

みんなが育つ第六小学校」

子供一人に対して、教職員全員が
担任であるという意識を！

○目指す子供像 『人間味あふれ、自ら考え、自ら学ぶ子供』

「人間味あふれる」→人間としての幅が広いこと。相手の存在を認める、相手の考えを理解しようとする事。

「自ら考える」 →まず、自分で考え、判断し、行動し、反省、責任をとること。

PDCA サイクルが身に付いていること。

「自ら学ぶ」 →事物や自然、人から学ぶ姿勢をもち、直接体験、間接体験を多く経験すること。

○期待する教師・大人像

感性を磨く

人間味あふれる子供を育てようとするには、私たちが人間味あふれる教職員として子供の前に立つことが大事です。教職員は専門職として常に研究と修養に努めるとともに、自らも好きなこと、得意なこと、趣味等を通して感性を磨き、次代を生き抜く子供たちの感性を磨いていきます。

◎R4年度の具体的な取り組み **学力向上=授業力向上を主軸に**

(1) 「分かる、できる、楽しい授業、使える・つくる能力を育む授業」力の向上

①相互授業参観期間の設定、実施

②校内研究の充実

③常に「Will」と「Can」のある学習活動を仕掛けていく。

④「六小自主学習の手引き」の見直し

(2) 朝学習について

全学年、毎週火、水、金曜日の朝8:25~8:40の15分間を国語科、算数科の時間とし、国語科の漢字(読み・書き)と算数科の「数と計算」領域における反復学習を通して、基礎学力の習熟と定着を図ります。令和4年度は、国語の取り組みに短文づくりなどの書くことも取り入れていきます。また、短時間の実施により「学力が高まる仕組みづくり=学ぶことの体幹トレーニング」として、学習の土台となる「集中力」「粘り強さ」「達成感」を身に付けるようにします。評価指標として、漢字ドリル、漢字学習ノート、漢字テスト、計算ドリル、e ライブラリー、東京ベーシックドリル診断テストを活用して、定着度を確認していきます。

(3) 一人一台タブレット端末の活用

昨年度の実践を基に、今年度は、さらにブラッシュアップを図り、子供たち一人一人に応じた指導、協働的な学び合いを行うことで、情報活用能力、問題発見、解決能力の育成を図っていきます。

(4) 「六小6つの『あ』」の定着→あいさつ◎、あつまり◎、あとしまつ◎

①あいていき◎……これまでの六小のよい伝統を引き継ぐ、よい表れを褒める

②あんぜん◎……安全指導、避難訓練のさらなる工夫を

③アイデア△……常に「Will」と「Can」のある教育活動を仕掛けていく、子供たち発信で。

(5) 特別支援教育の充実(インクルーシブ教育の推進)

第六小は、特別支援教室の拠点校、ことば・きこえの教室があることが強みです。この強みを生かすために、1,2年生は生活科、学級活動、3~6年生は、総合的な学習の時間に位置付け、ことばきこえ教室、すずらん教室教員による理解啓発授業を実施します。昨年度の実施内容を基に、さらにブラッシュアップを図り、6年間を通して、特別支援教育の視点にたった子供たちの育成を図っていきます。

(6) 体育学習発表会、展覧会の実施内容、実施方法について

新型コロナウイルス感染症の感染状況について見通しが立てにくい状況にあります。緊急事態宣言、まん延防止等重点措置がとられた場合、国や東京都の指針に従って学校の教育活動を行っていかねばなりません。また、学級閉鎖、学年閉鎖が生じた場合も想定しなければなりません。行事の中止や延期を避けるため、できる方法を考え、実施して参ります。体育学習発表会については、児童鑑賞日、保護者鑑賞日と分け、低・中・高のブロックで分けて実施内容を考え、発表をします。また、感染拡大防止対策として、保護者の皆様の参観を入替制とします。詳細は、後日お知らせします。

☆感染状況を見ながら、既存の実施方法にとらわれず、できない理由を列挙するのではなく「こうすれば実施できる」という発想、ワンポイント改善、新しい視点での改善で教育活動を進めていきます。